

令和 6（2024）年度事業報告書

公益社団法人 日本小児保健協会

I. 法人の概況

[目的]

本公益社団法人は、小児保健の進歩・発展を図り、もって人類・社会の福祉に貢献することを目的とする。

[事業]

- (ア) 学術集会の開催〔第 1 号事業〕
- (イ) 機関誌及び図書などの刊行〔第 2 号事業〕
- (ウ) 各種の学術的調査研究〔第 3 号事業〕
- (エ) 各種の研修〔第 4 号事業〕
- (オ) 小児を取り巻く保健、医療、教育、福祉など社会一般への啓発並びに普及活動、本会の活動や小児保健全般に関わる意見聴取（パブリック・コメント）〔第 5 号事業〕
- (カ) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

[会員の状況]

	令和 4（2022）年度末 （令和 5 年 3 月 31 日現在）	令和 5（2023）年度末 （令和 6 年 3 月 31 日現在）	令和 6（2024）年度末 （令和 7 年 3 月 31 日現在）
個人会員	3,024 名	2,875 名	2,790 名
団体会員	136 団体	113 団体	107 団体
賛助会員	8 社	8 社	8 社

* 令和 6（2024）年度末における会費滞納者（個人会員 55 名）を定款第 3 章第 12 条に基づき退会（会員資格の喪失）とした（令和 7（2025）年 3 月 31 日付）。

令和 6（2024）年度 個人会員入退会者数および職種別内訳 ※再入会含む。
(令和 7（2025）年 3 月 31 日現在)

種 別	新入会員	退会会員	令和 6 年度末会員
小児科医師	47 名	83 名	1,085 名
その他の医師	5 名	9 名	54 名
歯科医師	6 名	6 名	83 名
保健師	9 名	12 名	96 名
助産師	4 名	12 名	49 名
看護師	21 名	31 名	301 名
看護教諭	0 名	4 名	31 名
栄養士	2 名	0 名	18 名
養護教諭	0 名	0 名	0 名
保育士	3 名	4 名	19 名
教職・研究職	25 名	51 名	842 名
学生・大学院生	16 名	9 名	53 名
その他の職種	10 名	22 名	159 名
合 計	148 名	243 名	2,790 名

[人事について]

1. 令和6(2024)年度名誉会員

理事会より総会へ推挙し、承認を得て決定した。 ※50音順

五十嵐 隆 氏(東京都)

岡田 知雄 氏(東京都)

神崎 晋 氏(鳥取県)

本間 一正 氏(神奈川県)

松浦 信夫 氏(静岡県)

II. 事業の概況

II-1. 事業の実施状況

ア. 日本小児保健協会学術集会の開催 [第1号事業]

第71回(令和6(2024)年度)日本小児保健協会学術集会

会頭:真部 淳(北海道大学大学院医学研究院小児科学教室 教授)

会期:会場開催/令和6(2024)年6月21日(金)~6月23日(日)

オンデマンド配信/会頭講演、基調講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、セミナーについては、令和6(2024)年7月12日(金)12:00~8月21日(水)12:00で配信

場所:グランドメルキュール札幌大通公園 (旧)ロイトン札幌*会場開催+オンデマンド配信

テーマ:小児を中心に置いた社会の実現

参加者:現地参加 712名、全登録者数 1,017名、オンデマンドアクセス総数 3,783回、懇親会参加者 84名

イ. 機関誌及び図書などの刊行 [第2号事業]

1. 『小児保健研究』の発行

協会機関紙『小児保健研究』電子ジャーナルとしてホームページに掲載した(年6回奇数月月末発行)。会員は最新号までの閲覧が可能。発刊後6ヶ月を経過した巻号については、一般に向けて公開し閲覧可能としている。令和6(2024)年度は、第83巻3号~第84巻2号(令和6(2024)年5月末日発行号~令和7(2025)年3月31日発行号)を刊行した。学術集会講演集を年間1回冊子により発行(5月末日発行、3,800部)。

2. ホームページ・メールマガジン・公式LINEによる情報発信

協会ホームページおよびメールマガジン、LINE公式アカウントにより、オンラインジャーナル発行や学術集会を含む協会研修会等の開催告知、国や自治体の小児保健に関する情報等の発信を行った。メールマガジンはvol.357~vol.393を発信した。令和5(2023)年度より、LINE公式アカウントを取得し、メールマガジンと並行して情報発信を開始した。

3. E-ラーニング

会員向けのサービスの充実のために、E-ラーニングを導入し、会員専用で、協会活動で配信された動画や学術集会の教育講演、各委員会の主催セミナー、各委員会が作成した動画を閲覧できるよう、提供方法の調整とコンテンツの収集を行った。

ウ. 学術的調査研究 [第3号事業]

1. 乳幼児身体発育調査分析報告 [発育委員会]

延期となっていた乳幼児身体発育調査が令和5(2023)年度に実施され、令和6年(2024)年度に調査結果が発表された。乳幼児身体発育調査担当厚労省研究班の研究分担者が委員会内に5人いるため、次回の学術集会で、栄養委員会と合同で調査結果の概要、発育曲線の啓発、乳幼児期の栄養について合同シンポジウムを開くことを決定し準備を行った。

2. 幼児健康度調査〔幼児健康度調査委員会担当〕

幼児健康度調査は昭和 55 (1980) 年度第 1 回から 10 年毎に継続的に行っている。第 5 回調査は、当初、令和 2 (2020) 年度の実施予定であったところ、新型コロナウイルス感染症の影響により実施に至らず、令和 3 (2021) 年度に初の試みとなるオンライン調査により実施に至った。調査回答の依頼ルートは第 4 回調査までの市町村ルートに加え、団体ルート、そして民間調査会社ルートと多様化し、その結果、回答者は 25,000 人を超えた。令和 6 年度は、第 5 回調査で得られた結果を踏まえ、分析を実施した。委員で分担して分析結果を学術雑誌に投稿する準備を続けている。今後は、これまで 4 回 (40 年) に及ぶ過去の幼児健康度調査結果との比較検討から明らかにした課題について、次回の調査につながる課題内容の整理を実施する予定である。

エ. セミナー・研修会の開催〔第 4 号事業〕

1. 令和 6 (2024) 年度子ども救急電話相談研修会〔小児救急の社会的サポートに関する検討委員会担当〕

〈ベーシックコース〉

令和 6 (2024) 年 6 月 29 日 (土) にオンラインで開催し、33 名の参加を得た。研修会では電話相談の意義と役割について解説し参加者の理解を深めた。終了後のアンケートでは、参加者から肯定的な評価が得られた。

〈アドバンスコース〉

アドバンスコースについては、研修の在り方・参加者の拡大の必要性等を含めて見直しを実施し、研修内容を再編成した。そのうえで令和 6 (2024) 年 10 月 13 日 (日) に東京工科大学で対面にて開催し、9 名の参加者であった。参加者は模擬電話相談を体験し、自らの相談技法の傾向と技術的課題について理解し、実践への動機づけとした。参加者からは高評価が示された。

2. 第 12 回傷害予防教育セミナー〔傷害予防教育委員会担当〕

本セミナーは、平成 25 (2013) 年から毎年開催しており、今回で 12 回目を迎えた。

日時：令和 6 (2024) 年 6 月 23 日 (金)

会場：グランドメルキュール札幌大通公園 (旧ロイトン札幌) 第 3 会場 2 階リージェント (第 71 回日本小児保健協会学術集会会期中)

参加費：無料 (ただし、第 71 回学術集会への参加登録が必要。)

講師：こどもの傷害を減らすためのデータ収集および利活用 (緑園こどもクリニック院長 山中龍宏)、最近の子どもの傷害事例とその対策 (国立成育医療研究センター林幸子)、海外の先進事例に学ぶ科学的な傷害予防の実践 (産業技術総合研究所 北村光司)、最新教材紹介とそれを活用した傷害予防ワークショップ・交流会 (産業技術総合研究所 大野美喜子)

3. 第 8 回多職種のための投稿論文書き方セミナー (ハイブリッド開催)〔編集委員会担当〕

これから投稿論文を執筆する医師、看護師、保健師などのコメディカルをはじめ、保育、福祉、教育、行政など多職種に向けた投稿論文の書き方のセミナーを開催した。

日時：令和 6 (2024) 年 6 月 22 日 (土)

会場：グランドメルキュール札幌大通公園 (第 71 回日本小児保健協会学術集会会期中)

参加者：現地参加者数 61 名

参加費：無料

4. 第 9 回多職種のための乳幼児健診講習会 (Web 開催)〔教育委員会担当〕

5 歳児健診が国の補助事業対象となり、全国で地域の状況に応じた取り組みが進められている。こども家庭庁、5 歳児健康診査マニュアルの執筆者などにより健診にかかわる多職種が共通認識を持ってかわれるよう企画した。終了後のアンケートでは、開催時期、全体時間、1 講演時間、開催方法、各講師の講演内容は概ね好評。参加者の多さからも 5 歳児健診を網羅する内容となっており、大変関心の高いテーマとなった。5 歳児健診の拡充に向けて各自自治体危機感をもって準備をし

ているところと思われる。オンデマンド配信を希望するコメントがあり、今後検討していく必要がある。

日 時：令和6(2024)年9月29日(日)

テーマ：さあ、始めよう！5歳児健診

参加費：会員3,000円、非会員/医師・歯科医師6,000円、非会員/医師・歯科医師以外3,000円

会 場：Webライブ開催

参加者：207名

取得単位：日本小児科医会地域総合小児医療認定医研修会単位（新規10単位、更新5単位）

5. 第9回多職種のための発達障害の研修会（Web開催）〔教育委員会担当〕

発達障害当事者の声から感覚の問題を抱えていることが分かってきている。発達障害の子どもが抱える感覚の問題を取り上げ、子どもたちの困難とその支援法について、特に発達障害への療育に関わる多職種の方を対象とした研修会を企画、開催した。終了後のアンケートでは、開催時期、全体時間、1講演時間、開催方法、各講師の講演内容は概ね好評。講演もQ&Aに多くの質問が寄せられた。午前中の講演については、講師の好意で全ての質問への回答が行われた。今後の希望として、思春期や大学生の発達障害、不登校の問題、食事や睡眠の問題など複数あり、次のプログラムで検討。

日 時：令和7(2025)年3月2日(日)

テーマ：感覚を通じて発達障害の子どもを理解する

参加費：会員3,000円、非会員/医師・歯科医師6,000円、非会員/医師・歯科医師以外3,000円

会 場：Webライブ開催

参加者：185名

取得単位：なし

6. 小児かかりつけ医のための発達障害スキルアップ講座（WEB開催）

日本小児保健協会、日本小児科学会、日本小児精神神経学会共催、日本医師会後援のもと、小児の発達障害に興味のある医師を対象に開催した。

日時：①ライブ配信/令和6(2024)年5月19日(日)10:00~15:10 ②オンデマンド配信1/令和6(2024)年5月27日(月)~6月末日 ③オンデマンド配信2/令和6(2024)年12月16日(月)~令和7(2025)年3月15日(土)

参加者：①436名 ②1,169回視聴 ③197名登録

開催形態：①Zoomウェビナー配信（配信場所：日本小児保健協会事務局）②①の参加者を対象とした、Youtubeによる限定配信 ③Moodleを使用した都度課金配信

参加費：5,000円

オ. 小児を取り巻く保健、医療、教育、福祉など社会一般への啓発並びに普及活動〔第5号事業〕

1. 第40回小児保健セミナー（Web開催）〔教育委員会担当〕

母子保健行政の最近の動向等について解説するとともに、はじめの100か月の育ちビジョンや、医療的ケア児・病児保育をテーマにすることで、多職種（保育者含む）が参加しやすい内容になるよう企画した。

終了後のアンケートでは、開催時期や全体の時間としては適切との回答が多く、内容についての評価も良好であった。今後希望するテーマとして、「医療的ケア児」「性教育について」などの要望があげられた。

日時：令和6(2024)年11月17日(日)

会場：Webライブ開催

テーマ：こどもまんなかのこども支援

参加者：65名

参加費：会員3,000円、非会員/医師・歯科医師6,000円、非会員/医師・歯科医師以外3,000円

取得単位：なし

※講演の内容を、機関誌『小児保健研究』第84巻3号に掲載予定。

2. 委員会事業

(1) 発育委員会

委員会の所掌を厚生労働省乳幼児身体発育調査の円滑な実施と調査結果の学術的活用に関する議論と活動を行うこととしている。延期となっていた乳幼児身体発育調査は、令和5(2023)年度に実施され、調査結果は令和6(2024)年度に公表された。そこで、本委員会は令和7(2025)年度の学術集会でシンポジウムを行うことを提案し、調査結果を含めて、栄養委員会とともに発育曲線、乳幼児期の栄養についての重要性を啓発することを企画し、採択された。

令和6(2024)年度は、発育委員会のメンバーに乳幼児身体発育調査担当研究班のメンバーを新たに3人迎えた。1回のWeb会議を行い、発育曲線の啓発や今後の委員会のあり方について議論をした。乳幼児発育調査については、担当研究班に引き続き学術的立場から提言していくことを確認し、さらに発育の重要性の啓発についての議論も行った。

(2) 幼児健康度調査委員会

幼児健康度調査は昭和55(1980)年度第1回から10年毎に継続的に行っている。令和6(2024)年度は委員の改選が行われ、第6回調査に向けた検討が開始されたとともに、第5回調査の分析結果について、学術雑誌への投稿を進めることとした。

(3) 予防接種・感染症委員会

1) 予防接種・感染症情報の発信

「感染症・予防接種レター」として、令和6(2024)年度、小児保健研究(奇数月月末定期発行)の83巻3号(レターNO.第104号)から84巻2号(第109号)に収載し、情報発信を行った。

小児保健研究巻号	発行日 (定期刊行・ 奇数月月末発行)	レターNO.	タイトル	執筆者
83-3	令和6(2024)年 5月31日発行号	第104号	小児科医に対するHPVワクチン意識調査を通して、改めてVPD(Vaccine Preventable Disease)について考える	久保田 恵巳
83-4	令和6(2024)年 7月31日発行号	第105号	梅毒と先天梅毒の増加について	庄司 健介
83-5	令和6(2024)年 9月30日発行号	第106号	保育・教育施設等の感染症対策	渡邊 久美
83-6	令和6(2024)年 11月30日発行号	第107号	予防接種事業の実務を担う基礎自治体(市町村)の役割	越田 理恵
84-1	令和7(2025)年 1月31日発行号	第108号	造血幹細胞移植後の肺炎球菌ワクチン	城 青衣
84-2	令和7(2025)年 3月31日発行号	第109号	マイコプラズマ肺炎の流行と予防	菅原 美絵

2) 予防接種推進専門協議会への出席

本委員会 岡田賢司アドバイザー、多屋馨子アドバイザーが出席した。予防接種推進専門協議会での議事や依頼事項に関する検討や以下の依頼に対応した。

1. 下記の要望書を提出した。
 - ① 沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)の早期定期接種化に関する要望書(令和6(2024)年6月5日付厚生労働省 健康・生活衛生局感染症対策部長宛)
 - ② 組換えRSウイルスワクチンの早期定期接種化に関する要望書(令和6(2024)年11月15日付厚生労働省 健康・生活衛生局感染症対策部長宛)
2. 下記の要望書を作成し、現在、協議会加入学会で確認中。
 - ① RSウイルス母子免疫ワクチン、抗RSウイルスヒトモノクローナル抗体製剤に関する要望書を作成した。
3. 下記の文書を作成し、ウェブサイト公表した。
 - ① 麻疹流行に対する麻しん含有ワクチン接種に関する考え方を作成し、HPに公開した(令和6(2024)年4月4日付)。
 - ② ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン接種についてを作成し、HPに公開した(令和6(2024)年8月19日付)。
 - ③ 2024/25シーズンにおけるインフルエンザワクチン等の接種に関する考え方を作成し、HPに公開した(令和6(2024)年9月30日付)。
 - ④ ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンのキャッチアップ接種期間についてを作成し、HPに公開した(令和6(2024)年12月15日付)。
 - ⑤ 2024年度の新型コロナワクチン定期接種に関する見解を作成し、HPに公開した(令和6(2024)年12月20日付)。

3) 定期接種における全国の広域化実態調査

本委員会で行った調査結果を令和6年度日本小児保健協会学術集会で発表し、学術論文として公表した(日本小児科学会雑誌 129: 48-54, 2025)。

(4) 編集委員会

- 1) 「小児保健研究」電子ジャーナル(6回/年)を発行した。令和6(2024)年度は、第83巻3号(令和6(2024)年5月31日発行号)～第84巻2号(令和7(2025)年3月31日発行号)までを刊行した。
- 2) 「第71回日本小児保健協会学術集会講演集」(印刷媒体)を発行した(小児保健研究第83巻講演集(令和6(2024)年5月31日発行)。
- 3) 「第7回多職種のための投稿論文書き方セミナー」を開催した(令和6(2024)年6月22日 第71回日本小児保健協会学術集会会期中)。
- 4) 委員会開催: 令和6(2024)年4月3日(水)、6月22日(土)、8月7日(水)、10月2日(水)、12月6日(水)、令和7(2025)年2月18日(火)。なお、各回メール審議を行ったが、6月開催分については現地開催と併用した。

(5) 栄養委員会

- 1) 小児保健研究への投稿・掲載
原担当理事が関与している成長曲線普及推進活動を紹介した、「学校保健における潜在的な成長障害児の見逃しを防ぐ外科療法プロジェクトの実践 ～福島県郡山市での成長曲線に基づく実証から～」が、小児保健研究 84(1);7-10, 2025. に掲載された。(筆頭著者は菊池信太郎氏)
- 2) 第71回 日本小児保健協会学術集会で原担当理事が「成長曲線を用いた児童・生徒等の健康管理と成長障害の早期発見」に関する教育公演を行なった。
- 3) 第72回 小児保健協会学術集会におけるプログラム企画案の提出

発育委員会と共同で提出した、「成長曲線を活用して小児の発育と栄養を極めよう！」がシンポジウム6として採用され、長野栄養委員長が座長を、青木委員がシンポジストを務めることになった。

4) 第72回 小児保健協会学術集会における教育講演
越田会長からの要望により、原担当理事が「小児生活習慣病予防健診の歴史と新しい包括的な予防健診システム」について教育講演を行うことになった。

5) 第19回 子どもの食育を考えるフォーラムへの協力
令和7(2025)年2月11日にWeb形式で行われた表記フォーラム「乳幼児の食育と栄養欠乏症について学ぶ」において、委員長がフォーラムの企画に関わった。

6) 委員会の開催
令和6(2024)年6月23日(第71回学術集會会期中)に対面で、第1回の栄養委員会を開催した。令和6(2024)年11月21日に、第2回栄養委員会をWeb開催した。

(6) 学校保健委員会

1) 「学校健診における学校医および学校保健関係者の役割と課題に関する全国調査」の準備を行った。

2) 委員会開催

上記の活動のために、適宜メール会議を実施した。

(7) 小児救急の社会的サポートに関する検討委員会

1) 令和6(2024)年5月11日(土)、9月20日(金)、3月20日(木)にWebで委員会を開催した。その他、コアメンバー会議を数回開催した。

2) 委員会では、「小児救急電話相談スキルアップ研修会」の内容をリニューアルし、研修会の名称を「こども救急電話相談研修会—こどもの急な病気やけがで困っている保護者への電話相談対応技術を教えます—」とした。さらに、従来の研修会基礎コースはベーシックコースへ、実践コースはアドバンスコースへ改称した。基礎コースはWEB開催のため、多くの参加者が得られているが、実践コースは東京での2日間にわたる対面開催ということもあり、参加者が減少していた。そのため委員会内で研修の在り方・参加者の拡大の必要性等を含めて見直しを実施し、研修内容を再編成した。

3) 令和6(2024)年度入札を見送った厚生労働省#8000 対応者研修事業公募は、令和7(2025)年度も見送ることにした。令和6(2024)年度の同事業には、委員の福井と白石が講師として招聘された。

(8) 傷害予防教育委員会

第71回学術集會会期中の「傷害予防教育セミナー」後に委員会を開催し、セミナーの振り返りを行い、来年度の開催についての議論を行った。また、今後の傷害予防教育をどのように普及させるかについて議論を行った。

(9) 小児保健奨励賞研究助成選考委員会

令和6(2024)年度研究助成について、メール審議を行った。選考の結果は、2.協会活動に記載した。

(10) 小児保健奨励賞実践活動助成選考委員会

令和6年(2024)年度の小児保健奨励賞 小児保健・愛育会賞の選考を行った。スケジュールの都合により、メール審議により選考を行った。

(11) 健やか親子21・成育医療等基本方針推進委員会(旧:健やか親子21対応委員会・子育て

て包括支援委員会)

1) 委員会開催 (2回; 学会会場での現地開催、オンライン各1回)、メールによる審議及び意見交換を実施した。

2) 第24回健やか親子21推進本部総会(こども家庭庁)にオンライン出席し(理事1名、委員2名)、メールで情報共有を行った。

3) 令和7年度及びそれ以降の取組みに向けて新規委員を加えて体制を一新した。令和7年度の当協会学術集会において5歳児健診に関するシンポジウムを企画し、多職種視点から5歳児に必要な保健指導等について意見収集を行っている。また、成育医療等基本方針に基づき、中長期的に委員会の取り組むべきテーマの検討を開始した。

(12) 教育委員会

令和6(2024)年度、教育委員会では「小児保健セミナー」、「多職種のための乳幼児健診講習会」および「多職種ための発達障害の研修会」を主催した。委員会は、令和6(2024)年9月、12月および令和7(2025)年3月にオンラインで開催し、今後は3か月毎の開催を予定している。会議では、次年度のプログラム内容の検討に加え、参加者から要望の多いセミナー等のオンデマンド配信への対応や、参加者増加にむけた方策について検討・議論を行った。令和7(2025)年度も、「小児保健セミナー」、「多職種のための乳幼児健診講習会」および「多職種ための発達障害の研修会」の継続開催を予定している。

(13) ホームページ・広報委員会

協会ホームページの更新および協会メールマガジン、LINE公式アカウントから会員向けに学術集会、セミナー、講習会等の情報、小児保健研究の発行状況、最新の小児保健関連情報の周知などの情報配信を行った。2025年度は会員増加に向けた学会の在り方及び広報戦略について検討していく予定である。

(14) 若手による小児保健検討委員会

第71回日本小児保健協会学術集会にて、委員会内の小グループ活動「不登校児に対するICTを活用した支援に関する調査」をもとにシンポジウム「不登校児童生徒を多職種でどう支えるか～ICTを活用した支援と医療連携のあり方」を開催した。文部科学省初等中等教育局児童生徒課生徒指導室長仲村健二様をシンポジストの1人として招き、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策の推進」についてお話しいただいた。調査結果と合わせて、活発な質疑応答が行われた。本研究は、小児保健研究へ原著論文として投稿し、査読の過程にある。また、2023年1月に実施した会員ニーズ調査の結果は、2024年6月に協会ホームページに公開された。

2024年6月23日、改選後の12月27日、2025年3月24日に定例会議を設けた。本委員会内の3つの小グループ活動について討議した。改選後は小グループの目的と人員の設定を行い、議論を交わした。小グループにおいても、適宜オンライン会議開催、メール審議を実施予定である。

(15) 1か月児・5歳児健診推進委員会(アドホック)

2024年12月24日に第1回の委員会を開催し、保健師さんを中心としたベストプラクティスを紹介するような研修会が望まれていることを共通認識とした。2025年2月28日に第2回の委員会を開催し5月の平日に研修会を開催する方針となった。会議後、演者の選定等を行い5月23日14:00～16:00に「1か月児・5歳児健診研修会」web開催することが決定された。

4. 日本小児医療保健協議会(四者協)

子どもの健康を守り増進することを目的として、日本小児科学会、日本小児保健協会、日本小児科医会、小児外科連絡協議会の四者が協力して取り組むべき課題について検討を行っている。四者が協力してわが国の子どものための医療健康福祉介護保険の諸問題に対し討議し、提言を行い、その実現を進める牽引役となるための総括的な役割を担うべく活動した。

(1) 日本小児医療保健協議会（四者協）

以下の日程で開催された。新型コロナウイルスの影響を鑑み Web 開催。

令和 6（2024）年（第 219 回）5 月 15 日（水）、（第 220 回）7 月 17 日（水）、（第 221 回）9 月 18 日（水）、（第 222 回）11 月 20 日（水）、令和 7（2025）年（第 223 回）1 月 15 日（水）、（第 224 回）3 月 19 日（水）

(2) 日本小児医療保健協議会（四者協）合同委員会

1) 小児科と小児歯科の保健検討委員会

本委員会では、前期の検討テーマ「公的健診での保護者に寄り添う子育て支援」を冊子としてまとめ上梓し、同テーマにて第 71 回日本小児保健協会学術集会にてシンポジウムを開催した。また、本協会のホームページ、お役立ちガイドラインへ掲載した。続いて今期のテーマを「離乳食」をテーマとし、心身の健全な成長発達を育み、安心・安全な食のために小児科、小児歯科、栄養、心理の多職種からの見地より有効な情報発信をすべく検討を開始した。委員会は、令和 6 年 11 月 28 日、令和 7 年 2 月 13 日の 2 回開催し、テーマについて検討を行った。今後は、離乳食期の食べ物と歯、口腔機能、食の安全について統一見解をまとめ事例集などを作成する予定である。

2) 発達障害への対応委員会

発達障害の診療や支援にかかわる問題につき検討するとともに、外部へ発信して問題意識を委員会を越えて共有して課題に取り組む方針で活動を継続している。令和 6（2024）年度の第 71 回小児保健協会学術集会では、5 歳児健診と 1 か月健診の充実を目指し、健康診査委員会と「乳幼児健診で“ちょっと気になる子”の見つけ方とその支援」をテーマに共同シンポジウムを開催した。また、令和 7 年度末までに第二回市民公開講座を開催すべく、委員会で企画を練っている。委員会開催：令和 6（2024）年 12 月 25 日、令和 7（2025）年 3 月 25 日 Web 開催。

3) 「子どもと ICT、子どもたちの健やかな成長を願って」委員会

『子どもと ICT（スマートフォン・タブレット端末など）の問題についての提言』（平成 27（2015）年 1 月発表）を基に、スマートフォンなどの ICT 端末の過剰利用が子どもの健康に与える影響についてより広く社会へ普及・啓発に取り組むことを目的として活動している。令和 5（2023）年 6 月 16 日の学術集会時に委員会を開催した。委員長から本委員会の今までの流れ、四者協の活動について、平成 30（2018）年に四者協でのシンポジウムを開催以後は合同の活動はなくなっている状況の報告があった。委員会として、令和 6（2024）年の学術集会になんらかの委員会企画を提案すること、また四者協で集まる機会を作ってもいいのではという案が出た。学術集会における企画について委員長に依頼した。今後の委員会活動については検討が望ましい。

令和 7（2025）年学術集会では、4 社協で構成される当委員会で、シンポジウム「デジタル社会の子育て・子育て」を企画し、まずはリモート会議で、小児科学会、小児科医会、小児保健協会のシンポジウム間での情報（抄録内容）の共有を図った。シンポジウム当日の議論や、フロアからの意見も踏まえ、今後の 4 者協合同での活動、啓発を進めていきたい。

4) 健康診査委員会

令和 6（2024）年度、健康診査委員会では、乳幼児健康診査（以下、乳幼児健診）に従事する医師等の技術の向上と、標準的な疾病スクリーニングおよび保健指導の普及を目的として、全 3 回の研修会「乳幼児健診を中心とする小児科医のための研修会～乳幼児健診マニュアルに基づく診察と対応～Part VII」を Web 開催した。本研修会では、令和 6（2024）年度から公費助成が開始された 1 か月児健診および 5 歳児健診に関する講義に加え、保健指導のトピックとして、食物アレルギー、偏食、子どものメディア視聴に関する内容を盛り込み、プログラムをアップデートした。また、令和 6（2024）年 6 月に札幌市で開催された日本小児保健協会学術集会において、健康審査委員会と発

達障害への対応委員会との合同企画として、シンポジウム 11「乳幼児健診で見つかる“ちょっと気になる子”一線で行う評価と支援」を開催し、生後から 5 歳児健診までの縦断的な育児支援のあり方について活発な討論が行われた。委員会は令和 6（2024）年 11 月と令和 7（2025）年 3 月の 2 回開催し、今後は 3 か月毎の定期開催を予定している。会議では 5 歳児健診の実施率向上にむけた課題を中心に、情報共有と議論を重ねた。令和 7（2025）年度は、引き続き 3 回の基本研修会を継続するとともに、健康審査委員会と発達障害への対応委員会との合同ワーキンググループによる 5 歳児健診の実施支援に焦点をあてた研修会の開催を予定している。

5) 日本小児科学会主管合同委員会

- ・栄養委員会（食育フォーラム）
- ・治療用ミルク安定供給委員会
- ・重症心身障害児（者）・在宅医療委員会

6) 日本小児科医会主管合同委員会

- ・成育基本法制定推進委員会
- ・地域総合小児医療連絡協議会

7) 日本小児期外科系関連学会協議会主管合同委員会

- ・小児周産期災害医療対策委員会
- ・災害時小児周産期リエゾン連絡協議会
- ・疾病登録と保健・医療情報の電子化に関する委員会

5. 外部団体委員会等

- (1) 予防接種推進専門協議会（代表者会議および全体会議）
- (2) 小児慢性疾患委員会
- (3) 健康日本 21 推進全国連絡協議会
- (4) エコチル調査企画評価委員会（環境省）
- (5) 母子保健推進会議
- (6) 学校健診に関する意見交換会
- (7) 電子母子健康手帳ガイドラインに関する検討会（子ども家庭庁）
- (8) 妊娠・出産・産後における妊産婦等の支援策に関する検討会（厚生労働省）
- (9) 健やか親子 21 推進本部総会

カ. その他の事業

1. 後援事業

	事業名	申請団体（申請者）
1	第 18 回 おもちゃ・子育てアドバイザー養成講座	特定非営利活動法人“遊びとしつけ”推進会
2	第 45 回 こどもの難病シンポジウム「全ての人々が食を楽しみ人生を豊かに過ごすために～多様化する食について医療者・当事者それぞれの立場から～」	認定 NPO 法人難病のこども支援全国ネットワーク
3	一般社団法人日本育療学会 第 28 回学術集会	一般社団法人日本育療学会 理事長 滝川国芳
4	第 35 回全国保育園保健研究大会	一般社団法人全国保育園保健師看護師連絡会会長 山口理恵
5	令和 6 年度健やか親子 21 全国大会（母子保健家族計画全国大会）	こども家庭庁成育局長

6	秋田県小児保健会 令和6年度 WEB 講演会	秋田県小児保健会会長 高橋勉
7	令和6年度小児医学研究振興財団 web 市民公開講座 「子どもの感染症と予防接種」	公益財団法人小児医学研究振興財団 理事長 高橋孝雄
8	第45回全国歯科保健大会	厚生労働省医政局歯科保健課
9	日本子ども虐待防止学会第30回学術集会かがわ大会	日本子ども虐待防止学会第30回学術集会かがわ大会 大会長 木下 あゆみ
10	2024年度小児保健支援者研修会	神奈川県小児保健協会 会長 大崎 逸郎
11	大塚製薬災害対策セミナー～アレルギー児の災害対策を多職種で考える～	大塚製薬株式会社 地域包括推進部長 山田 成高
12	月刊「母子保健」セミナー～話題の母子保健テーマを理解する～	公益財団法人母子衛生研究会
13	第28回日本臨床救急医学会総会・学術集会 併催 「親子で一緒に学べる市民公開講座 一救急医からのやさしいお話を聞いてくださいー	第28回日本臨床救急医学会総会・学術集会 会長 守谷 俊

2. 協会活動

(1) 協会活動助成

1) 小児保健奨励賞・研究助成

小児保健に関する研究の活性化を目的として、会誌『小児保健研究』誌上において発表された論文の中から、選考委員会による選考を行い、理事会での承認を得て助成論文を決定している。対象者は毎年2件以内で、1件あたり10万円の助成金を支出している。令和6(2024)年度の選考結果は以下のとおり。

(対象論文)

論文執筆者： 横山 三千代 (金沢大学大学院医薬保健学総合研究科博士前期課程保健学専攻現 白山市役所 (保健師))

論文名： 保健師による発達障害児の行動特性の捉えの実態

掲載巻号： 小児保健研究 第82巻2号 p 154-164

種類： 研究

(対象論文)

論文執筆者名： 佐々木 匠 (東北大学医学部保健学科看護学専攻 (学部学生))

論文名： 東北地方における小児神経科医が捉える小児期発症てんかん患者の移行期支援の現状と課題

掲載巻号： 小児保健研究 第82巻5号 p. 441-452

種類： 研究

2) 小児保健奨励賞 小児保健・愛育会賞

小児保健活動の活性化・新しい取り組みを奨励することを目的に、小児保健奨励賞・実践活動助成として実施していた事業について、平成29(2017)年度より「小児保健・愛育会賞」と名称を変更して実施している。選考委員会による選考を行い、理事会での承認を得て決定している。授賞対象の活動は毎年2件以内で、1件あたり10万円の助成奨励金を支出している。なお、本助成事業の助成奨励金は、社会福祉法人恩賜財団母子愛育会愛育研究所からの支援を受けて支出をしている。令和6(2024)年度に受賞した活動については、同研究所『愛育病院・愛育クリニック年報 愛育研

究所紀要 2024』(令和 7 (2025) 年 3 月発行)に掲載・紹介された。なお、令和 6 (2024) 年度をもって、恩賜財団母子愛育会からの本事業への助成奨励金の支出援助が終了となるため、平成 29 年度より「小児保健奨励賞 小児保健・愛育会賞」と名称を変更して実施していた事業を令和 7 年度より「小児保健奨励賞 実践活動助成」と名称を復帰して実施する。

【小児保健・愛育会賞】

(対象活動)

活動名 Let's Save A Child Yamanashi Project

代表 山梨県立中央病院 勝又 庸行 氏

推薦 山梨県小児保健協会 会長 山縣 然太郎

活動名 不器用な子どもと家族のための発達支援教室「ハロハロ」

代表 関西学院大学 松井 学洋 氏

推薦 兵庫県小児保健協会 会長 西村 範行

(2) 都道府県研修会小児保健振興事業

都道府県地方協会からの申請を受け、本協会において審査の上、公共事業としてふさわしいと認められた研修会事業に対し、10 万円を上限として支給している。令和 4 (2022) 年度の本助成に関しては、当協会令和 2 (2020) 年度決算において、新型コロナウイルス感染症の影響により予定されていた事業実施が抑制されたことによる剰余金が生じたことについて、剰余分を公益目的事業の実施のために使用することとなり、本事業の助成金の各申請の上限額を従来の上限 10 万円を上限 20 万円として実施したが、令和 5 (2023) 年度は従来の上限 10 万円に戻して実施した。令和 5 (2023) 年度以降は、上限 10 万円での実施とし、令和 6 (2024) 年度は上限 10 万円での実施とした。助成金の申請期間は、前期と後期に分けて実施。申請は前期・後期で合計 42 件(前期 14 件、後期 28 件)を受け付け、助成金支出額は合計 4,114,240 円(前期 1,400,000 円、後期 2,714,240 円)。開催方法変更等については変更の届出を受け付けた。研修事業実施後は、実施報告提出が必須としており、収支報告における剰余金額分については返納を得ている。

3. 要望書

(1) 予防接種推進専門協議会「沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン(PCV20)の早期定期接種化に関する要望書」発出について

予防接種推進専門協議会より、令和 6 年 5 月付文書により、厚生労働省 健康・生活衛生局 感染症対策部長宛てに標題要望書が提出されることとなった。

(2) 日本小児医療保健協議会(四者協)および関連団体による、要望書「子どもが水筒を持ち歩くときの転倒事故に関する注意喚起について」への賛同・提出

標題の件について、四者協 日本小児期外科系関連学会協議会の取りまとめにより、当協会からも要望に賛同し、下記のとおり手交により提出された。

提出日：令和 6 (2024) 年 6 月 28 日付

提出先：こども家庭庁成育局安全対策課課長宛

提出・賛同団体：日本小児科学会、日本小児科医会、日本小児保健協会、日本小児期外科系関連学会協議会(以上、四者協)、日本小児救急医学会

(3) 予防接種推進専門協議会による、要望書「組換え RS ウイルスワクチンの早期定期接種化に関する要望書」発出について

予防接種推進専門協議会より、令和 6 年 10 月付文書により、厚生労働省 健康・生活衛生局感染症対策部長宛てに標題要望書が提出されることとなった。

II-2. 役員会等に関する事項

1. 常任理事会

常任理事会を4回開催し、協会の事業遂行上必要な案件を協議、決定し運営した。

第1回：令和6（2024）年5月20日（月）、第2回：7月19日（金）、第3回：10月21日（月）、
第4回：令和7（2025）年2月24日（月・祝）

2. 理事会

（1）令和6（2024）年度第1回理事会（Web開催）

日時：令和6（2024）年5月26日（日）

理事24名中19名出席で、本理事会は成立した。定款の規定による議事録署名人として、秋山千枝子監事、並木由美江監事、小枝達也会長が指名され開催した。

〔報告事項〕以下について、代表理事及び業務執行理事により職務執行状況報告がなされた。

I. 人事・事業実施報告、要望書等（予防接種推進専門協議会「沈降20価肺炎球菌結合型ワクチン（PCV20）の早期定期接種化に関する要望書」発出について）、その他（1）『DENVERⅡーデンバー発達判定法一』再販開始について、II. 開催計画

〔審議事項〕以下について承認された。

1. 総務関係：令和6（2024）年度名誉会員について、新入会員（令和6（2024）年3月～4月）について、令和5（2023）年度事業報告について、2. 協会活動関係：小児保健奨励賞 研究助成の選考結果について、小児保健奨励賞 小児保健・愛育会賞の選考結果について、3. 財務関係：令和5（2023）年度決算および監査報告について、その他議事：エコチル調査企画評価委員会の令和6年度委員改選に際する候補者推薦について、こども家庭庁「電子版母子健康手帳ガイドライン検討委員会」委員候補者推薦について、小児栄養分野推進合同協議会（旧名称：小児専門管理栄養士制度合同協議会）の名称変更と委員交代について、日本小児科学会所管の日本小児医療保健協議会（四者協）合同委員会の委員改選に伴う候補者推薦依頼について、会長推薦の理事枠の設置と令和6年定時社員総会での定款変更の提出について、【当日追加議事】研究倫理審査の整備に関連する倫理委員会規定改訂について

（2）令和6（2024）年度第2回理事会

日時：令和6（2024）年6月21日（金）

場所：グランドメルキュール札幌大通公園（旧：ロイトン札幌）クリスタルルームB

理事24名中19名出席で、本理事会は成立した。定款の規定による議事録署名人として、秋山千枝子監事、並木由美江監事および小枝達也会長が指名され、開催した。

〔報告事項〕以下について、代表理事及び業務執行理事により職務執行状況報告がなされた。

I. 人事・事業実施報告、II. 開催計画

〔審議事項〕以下について承認された。

総務関係：新入会申込（令和6年5月）について、その他議事：小児救急の社会的サポートに関する検討委員会「小児救急電話相談スキルアップ研修会」の名称変更について、学術集会演題登録 UMINの申請について、第74回日本小児保健協会学術集会会頭について、倫理委員会規程について、【当日追加議事】会長推薦の理事枠の設置と令和6年定時社員総会での定款変更の提出について

（3）令和6（2024）年度第3回理事会

日時：令和6（2024）年6月22日（土）17:00～17:10

場所：グランドメルキュール札幌大通公園（北海道札幌市中央区北1条西11丁目1番地1）

理事25名中19名出席で、本理事会は成立した。定款の規定による議事録署名人として、秋山千枝子、赤坂真奈美、両監事および山縣然太朗会長が指名された。

〔審議事項〕 以下について承認された。

会長（代表理事）の選任について

山縣然太郎理事が推薦され、出席理事 19 名全員の賛成をもって選任が可決され、山縣然太郎理事が直ちに就任を承諾した。本議題の可決をもって令和 6（2024）年度第 3 回理事会は閉会された。

（4）令和 6（2024）年度第 4 回理事会（WEB 開催）

日時：令和 6（2024）年 8 月 6 日（火）18：30～20：00

理事 25 名中 23 名出席で、本理事会は成立した。定款の規定による議事録署名人として、秋山千枝子、赤坂真奈美、両監事および山縣会長が指名され、開会した。

〔報告事項〕 以下について、代表理事及び業務執行理事により職務執行状況報告がなされた。

I. 人事・事業実施報告、要望書等：日本小児医療保健協議会（四者協）および関連団体による、要望書「子どもが水筒を持ち歩くときの転倒事故に関する注意喚起について」への賛同・提出、その他報告事項：「産後ケア事業多職種連携協議会」の委員会設置に伴う委員派遣依頼について、II. 開催計画

〔審議事項〕 以下について承認された。

総務関係：新入会申込（令和 6 年 6 月～7 月）について、その他議事：（1）「子育て包括支援委員会」「健やか親子 21 対応委員会」の改編について、（2）「1 か月児・5 歳児健診推進委員会」の設置について、（3）副会長・常任理事の選任について、（4）会長選任の理事選出について、（5）臨時総会の開催について、（6）委員会事業等の担当理事の配置について、（7）新体制における委員改選（委員候補者の選出）について

（5）令和 6（2024）年度第 5 回理事会（Web 開催）

日時：令和 6（2024）年 11 月 11 日（月）18：30～20：00

理事 30 名中 28 名出席で本理事会は成立した。定款の規定による議事録署名人として、秋山千枝子監事、赤坂真奈美監事および山縣然太郎会長が指名され、開会した。

〔報告事項〕 以下について、代表理事及び業務執行理事により職務執行状況報告がなされた。

I. 人事・事業実施報告、要望書等：予防接種推進専門協議会による、要望書「組換え RS ウイルスワクチンの早期定期接種化に関する要望書」発出について、II. 開催計画

〔審議事項〕 以下について承認された。

総務関係：新入会申込（令和 6 年 7 月～10 月）について、協会活動関係：小児保健奨励賞小児保健・愛育会賞への助成奨励金支出援助終了に伴う事業名および規定変更等について、教育普及関係：1 か月児健診・5 歳児健診推進委員会、その他議事：（1）令和 6（2024）年度委員改選について、（2）他団体主幹の日本小児医療保健協議会（四者協）合同委員会の令和 6 年度改選に伴う委員候補者推薦について、（3）日本医師会「母子保健検討委員会」への委員推薦依頼について、（4）こども家庭庁「プレコンセプションケアの提供のあり方に関する検討会～性と健康に関する正しい知識の普及に向けて～」への参画依頼について、（5）こども家庭庁「令和 6 年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業『保育所等における乳幼児の健康診断に関する調査研究』」調査委員会 委員推薦依頼について

（6）令和 6 年度第 6 回理事会（Web 開催）

日時：令和 7（2025）年 3 月 12 日（水）18：30～20：00

理事 30 名中 22 名出席で本理事会は成立した。定款の規定による議事録署名人として、赤坂真奈美監事および山縣然太郎会長が指名され、開会した。

〔報告事項〕 以下について、代表理事及び業務執行理事により職務執行状況報告がなされた。

I. 人事・事業実施報告、要望書等：『特別支援学校の「子どものための指定福祉避難所」施設整備と指定・公示促進に関するお願い』要望書手交後の経過報告について、その他議事：当協会会長改選に伴う母子保健推進会議への理事交代について、「第 71 回学術集会講演集」記載誤りに関する対応について、II. 開催計画

〔審議事項〕 以下について承認された。

総務関係：(1) 新入会申込（令和 6 年 11 月～2 月）について、(2) 令和 7（2025）年度 事業計画（案）について、(3) 令和 7（2025）年度定時社員総会の開催について、(4) 日本小児保健協会学術集会に関して、企業主催のイベントの後援に関する基本的な考え方とプロセス、財務関係：令和 7（2025）年度 予算（案）について、資金調達及び設備投資の見込みについて、編集関係：投稿規定改定について、教育普及関係：1) 1 か月児、5 歳児健診研修会、2) 教育委員会担当以外の研修会のあり方（小児かかりつけ医のための発達障害スキルアップ講座等、3) 令和 7 年度の小児かかりつけ医のための発達障害スキルアップ講座への共催について、要望書等：「RS ウイルス母子免疫ワクチンの早期定期接種化ならびに抗 RS ウイルスヒトモノクローナル抗体製剤を広く提供するための体制整備に関する要望書」について、その他議事：日本小児医療保健協議会（四者協）合同委員会『子どもと ICT、子どもたちの健やかな成長を願って』委員会」委員改選について、研究倫理規定改定による書類改定案について、会員増員に関する取り組み、転載許可申請手続きの改正について

(7) 理事会の決議省略（電子メールによる見直し決議）

1) 令和 6（2024）年度第 1 回理事会見直し決議（令和 6 年 12 月 16 日付 全理事同意・全監事異議なし）

（提案事項）

1. 「小児保健奨励賞 研究助成 選考委員会」委員の交代について
「小児保健奨励賞 研究助成 選考委員会」委員につきましては令和 6（2024）年 11 月 11 日に開催されました、第 5 回理事会にて承認されましたが、その後委員の 山縣 然太朗 先生、堀口 寿広 先生より委員交代のご意向があったことから、下記の通り委員の後任を提案いたします。

（現職）

・山縣 然太朗 先生（国立成育医療研究センター こどもシンクタンク 副所長／山梨大学大学院 総合研究部附属出生コホートセンター 特任教授）
・堀口 寿広 先生（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 公共精神健康医療研究部 室長）

（後任）

・井原 健二 先生（大分大学 医学部小児科学講座 教授）
・野上 恵嗣 先生（奈良県立医科大学 小児科学教室 教授）
・中山 美由紀 先生（大阪府立大学看護学部 教授）

2. 「産後ケア事業多職種連携協議会」の委員会 委員交代について

産後ケア事業多職種連携協議会（事務局：国立成育医療研究センター）安全管理委員会へは、当協会より堀口 寿広 先生にご出席いただいております。この度、堀口 寿広先生より委員交代のご意向があったことから、下記の通り委員の後任を提案いたします。

（現職）

堀口 寿広 先生（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 公共精神健康医療研究部 室長）

（後任）

長野 伸彦 先生（日本大学医学部 小児科学系小児科学分野 准教授）

2) 令和6(2024)年度第2回理事会見做し決議(令和7年2月13日付 全理事同意・全監事異議なし)

(提案事項)

(1)「小児保健奨励賞 実践活動助成 選考委員会」委員の交代について

「小児保健奨励賞 実践活動助成」につきましては、これまで全国の小児保健活動の活性化・新しい取り組みの奨励を目的に、「小児保健奨励賞 小児保健・愛育会賞」として実施が行われて参りました。令和6年度支出分を以て、恩賜財団母子愛育会からの支出援助が終了したことを受け、令和6年11月11日に開催されました第5回理事会にて事業名称・助成金支出財源の変更が承認されたところです。

この度、添付資料の通り、委員候補者の推選が委員会よりございましたので、提案いたします。

松浦 賢長 先生(福岡県立大学 理事 兼 看護学部地域看護学講座教授)

杉浦 至郎 先生(あいち小児保健医療総合センター 保健室長)

前田 美穂 先生(日本医科大学 名誉教授・嘱託医)

(2) 研修会資料の目的外使用について

当協会主催の研修会資料に関しましては、受講者本人に限り使用を認めております。

この度、令和6年9月26日(日)に開催されました「第9回多職種のための乳幼児健診講習会」の配布資料について下記の通り、問い合わせがございました。

●問い合わせ内容

「第9回多職種のための乳幼児健診講習会」の配布資料を有志の勉強会で利用したい。

●対象者

沖縄県内の協会会員(研修受講者も含める)と各専門職の有志

●経緯

・沖縄県では各乳幼児健診を市町村より受託し、県下で統一した受診票の作成、専門職員の派遣、健診結果の集計並びに分析・精度管理、各担当者への研修会等を開催している。

・今年度、5歳児健診の開始にあたり、オリエンテーション的な研修会は行ったが、具体的に各市町村で実施するにあたり、多職種で勉強会を実施することとなった。

・健診の必要性や具体的な内容、実施の仕方、フォローなど学習しながら意見交換し、沖縄県の5歳児健診を作っていこうと考えている。その資料の一つとしてぜひ資料を活用させていただきたい。

●問い合わせ元

沖縄県小児保健協会

本件について、教育委員会での審議を受けて、下記条件にて利用を認める旨提案をいたします。

1. いわゆるクローズドである環境(限定された関係者のみが集まる環境、一般公開ではない環境)での利用であること
2. 全ての講師が、利用者と利用目的を理解した上で、資料の目的外利用を承諾していること
3. 資料利用時に利用者が資料の引用を明示すること
4. 理事会が承認していること

(3) 環境省「令和7年度エコチル調査企画評価委員会」の委嘱について

環境省「エコチル調査企画評価委員会」へは、当協会より千先 園子 先生へご出席いただいております。

この度、令和7年度委員会への参画依頼に対し、継続して千先先生へご出席いただくことを提案いたします。

(現職)

千先 園子 先生

(国立成育医療研究センター 小児内科系専門診療部 こころの診療科
／成育こどもシンクタンク 戦略支援室 戦略マネージャー・企画調整室 副室長)

(4) 日本小児医療保健協議会(四者協)合同委員会「災害時小児周産期リエゾン連絡協議会」委員推薦について

日本小児医療保健協議会(四者協)合同委員会「災害時小児周産期リエゾン連絡協議会」は、主幹は日本小児期外科系関連学会協議会となっており、同合同委員会「小児周産期災害医療対策委員会」

の下部組織ですが、委員推薦手続きは別途行うこととなっております。

この度、当協会よりご出席いただいております、藤井 祐子 先生より交代のご意向があったことから、

下記の通り委員の後任を提案いたします。

(現職)

藤井 祐子 先生(一般社団法人 全国保育園保健師看護師連絡会 理事)

(後任)

吉田 穂波 先生(神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科 教授)

(8) 令和6(2024)年度定時社員総会

日時: 令和6(2024)年6月22日(土) 16:10~17:00

[報告事項] 以下について、代表理事及び業務執行理事により職務執行状況報告がなされた。

1. 令和6(2024)年度 事業計画、2. 令和6(2024)年度 予算、3. 令和5(2023)年度 事業報告、4. 令和6(2024)年度協会活動助成 小児保健奨励賞の決定について

[審議事項] 以下について承認された。

1. 令和6(2024)年度 名誉会員の推薦について、2. 令和5(2023)年度決算書案ならびに監査報告、3. 定款の変更(会長推薦の理事枠の設置について)、4. 第74回日本小児保健協会学術集会について、5. 理事の選任、6. 監事の選任、7. 会長の選出

(9) 令和6(2024)年度臨時社員総会(ハイブリッド開催)

日時: 令和6(2024)年8月28日(水) 18:30~18:50

[審議事項] 以下について承認された。

理事の選任(会長推薦理事)